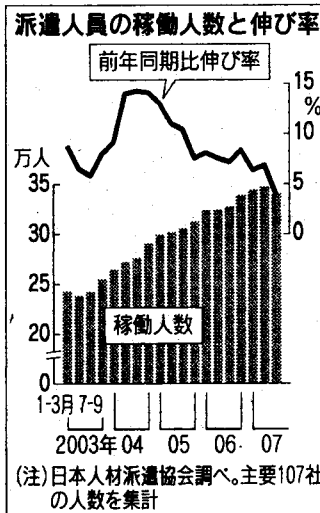


派遣や紹介など人材サービス各社の成長が踊り場に差し掛かった。主要企業の業績が失速、株価も低迷が続く。成長を後押ししてきた人材不足が一転、コスト増など逆風になってきたためだ。中長期的には成長が見込まれるが、各社横一線の拡大という時代は終わりがつある。

人材サービス主要十三社のうち、インテリジェンスやジェイエイシージャパンなど五社が今期の業績予想を下方修正した。九社が営業減益もしくは増益率が鈍化する。減速感が目立つのは人材派遣会社。企業が正社

人材サービス 成長踊り場に



員採用を拡大し、派遣スタッフの今期の営業増タッフの主力層だった二一〜三十歳の女性が正社員を目指したこともあり、人材確保に苦しむ。日本人材派遣協会の調べでは、七月九月の稼働ス

益率は七%と、前期の一四%から鈍化する見通し。主婦ら労働市場に出ていなかった人材を集めるため、住宅地周辺など約十カ所に登録拠点を出す費用がかさむ。

正社員の流動化に停滞の兆しが出てきたことも、人材ビジネスには懸念材料となる。転職しよ

派遣人材確保に苦心／転職引き留めも

うとする社員を、処遇改善で引き留めようとする動きが広がっている。民間の職業紹介大手三社が二〇〇七年度上半期に仲介した転職者数は四十一歳以上の層では一四%の伸びにとどまり、前年同期(四六%増)と比べ大きく鈍化した。

景気の先行き不透明感を背景に、企業の中途採用求人数の伸びも鈍り始めた。人材紹介最大手、リクルートエージェント(東京・千代田)に寄せられた中途採用求人数は十月末時点で約九万七千四百人と前月割れ。一

件がほとんど」という。〇四年の規制緩和で本格離陸し、八兆円規模まで育った人材ビジネスが初めて迎えた成長の踊り場。ただ中長期には成長への期待は大きい。人口減に伴い女性やシニア層を今以上に活用する動きは広がるだろうし、経済のグローバル化を背景に、国境をまたぐ転職なども活発になるとみられるからだ。

そんな将来の果実を手に入れるには、当面の逆風を乗り越えなければならぬ。人材サービス各社の知恵と実力が試されるステージに入りつつある。